

平成29年度 佐賀県立武雄高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標					
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する					
2 学校経営ビジョン					
創立109年目の歴史と伝統の下、校是：「質実剛健」「報恩感謝」の精神を基調に、高い志を持ち人間性豊かな生徒を育成する。					
①6年間の一貫した方針のもと中高一貫教育の推進、充実・発展に努める。					
②生徒の進路目標の実現のため、自ら学び考える態度を育み、学習への意欲向上や習慣化を図り、将来を見据えた教育実践に努める。					
③教育活動全体をととして、自他の存在を尊重することを基本とした指導を行い、安全・安心の学校環境づくりに努める。					
④生徒・保護者・職員にとって、満足度の高い信頼される学校づくりに努める。					
3 本年度の重点目標		4 前年度の成果と課題			
①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進		①進路第一希望の達成、グローバル教育、教育相談に関する支援体制の確立などの項目においては、高い評価が得られた。一方、探究・校外活動、教育の情報化、PTA総会などにおいては、今年度掲げた目標に対して十分な成果が得られなかった。			
②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現		②併設中学校との連携をさらに深めるため、中高相互授業参観や中学校から教科担当者会議に出席をしてもらうなど種々の試みを始めた。昨年度は15名の生徒が海外に派遣され、県や関係機関の代表として活躍してくれた。今後は海外との交流事業に加えて、身近な社会的課題に関する関心を喚起することでコミュニケーション能力や問題解決力を育成したい。			
③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進		③進路実績については、生徒の進路希望実現のために邁進した結果、国公立大学154名の合格と中高一貫校になってからの最高の数となった。東京大学1名、京都大学3名、九州大学12名、医学部医学科5名の合格者が出ており、最後まで第一志望をあきらめない姿勢が実を結んだ。			
④佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育の推進による、地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成		④校外活動生徒体験発表会における報告等に触発され、毎年多くの生徒がボランティア活動や留学・海外との交流事業等に参加している。昨年度は15名の生徒が海外に派遣され、県や関係機関の代表として活躍してくれた。今後は海外との交流事業に加えて、身近な社会的課題に関する関心を喚起することでコミュニケーション能力や問題解決力を育成したい。			
⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成		⑤佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育、ICT利活用教育の推進、アクティブラーニングの実践を教育活動を活性化させる項目として積極的に導入し、充実を図る。また来年は創立110周年の年となることから、記念事業の準備を本年度より本格化させる。			
⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進		⑥Web関連、SNS関連の情報モラルに反する生徒指導上の問題について、新たな対応策を講じることが急務になっている。また、教育相談体制の充実を図っている一方で、その支援を必要とする事案も増えてきており、外部機関や専門機関との連携をさらに強めていかなければならない。			
⑦教職員の指導力向上、機能的・効率的な学校運営による組織力の強化		⑦武雄高校だより・図書館だより・保健だよりなどの広報誌を頻繁に学校HPに掲載することができた。また、SEI-Netを利用したHPの活用もできている。今後はプレスリリース等も積極的にこなって、一層の広報活動の活性化を図る。一方、PTA総会の出席率は50.9%と半数を割り込みそうな状況となっており、保護者出席率の向上のための工夫が必要である。			
⑧県教育委員会が主催する各種研修会に多くの教職員が参加し、成果を上げた。また、県外の先進校視察により大いに刺激を受けた。若手の教職員も多く、ベテラン・中堅の教職員が若手の教職員を育成する体制作りが必要である。クラス減に伴う教職員の削減が進行していく中、より機能的・効率的な学校運営を進めることで組織力を強化したい。					
5 総括表					
①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	
特定課題	○中高一貫	併設中学校との連携を進める	・中高教師間の連携を深め、教育力を高める。 ・中高生徒間の交流を深め、一体感を持たせる。	・教科別に中高で互いの授業を参観し合い、授業研究会を実施する。 ・高校の教科担当者会議等に中学校職員にも参加してもらう。 ・中高生徒の各種行事・部活動での交流機会を設ける。 ・中高一貫教育の新たなグランドデザインの構築を併設中学校と共同で行う。	
②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現					
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	
特定課題	○進路指導	中高一貫6期生としての自覚と進路第一希望の達成	・一人ひとりの生徒が適切な進路選択ができ、その進路実現のための支援を行う。 ・3年国公立大学合格者150名以上、うち難関大学合格者30名以上、国立大学医学科複数名。	・1年次より教科担当者会議を計画的に行い、3年次の進路検討会へと繋げ、3年間を見通した指導を行う。 ・進路講演会、職員研修会等を行い、生徒の意識向上および職員の授業力向上を図る。 ・文理分け、コース分けのための情報提供を行い、指導・面談の充実を図る。 ・難関大学希望者への個別指導を、早い時期から実施する。 ・短大・専門学校・就職希望者には個別に対応する。	
	教育活動	●学力向上	教職員の指導力向上	・基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。
			生徒の実力養成	・全国模試総合偏差値60以上を各学年120名以上にする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、結果の検証、見直し、設定をする。
			「探究Ⅱ」の工夫と校外体験活動の奨励	・進路達成に資する各学年ごとの「探究Ⅱ」を計画・実行する。 ・年間50件以上の校外活動を紹介・募集し、のべ200人以上の活動体験者を出す。	・探究Ⅱ委員会または企画研修部会で、各学年の探究Ⅱにおける活動内容を検討し、必要な修正を行う。探究活動（協働学習、ディベート、小論文指導等）を充実させる。 ・年間計画を年度当初に示し、以後各学期に募集中の校外活動の案内を適切に行う。また、活動への参加目的が明確になるように参加報告書を書かせ、事前事後指導を行う。校外活動体験発表の場を設け、また文書による報告を行い、経験を共有させる。
③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進					
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用教育に対する生徒の満足度を高める（肯定的評価90%以上）。	・電子黒板や学習用PCを全教科で活用し、効果的な授業実践を行う。	・電子黒板や学習用PCの授業における活用状況を調査する。 ・各教科で電子黒板や学習用PCを活用した研究授業を行い、より効果的な活用を検討し実践につなげる。 ・授業以外での学習用PCの活用を推進する。	
	○主体的で効果的な学習活動のための「アクティブラーニング」の積極的導入	授業への導入を促進し、かつ、その検証と研究をおこなう。	・個人、グループで考えをまとめさせ、自分の考え方や行動についても考えさせるなどの活動を授業に取り入れる。	・中高合同授業研究会でアクティブラーニングを取り入れた授業の研究を行う。 ・授業アンケートでアクティブラーニングを取り入れた授業の検証を行う。	
学校運営	○教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PC導入への対応	教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PCの効果的な活用方法を工夫する。	・SEI-Netの効果的な活用方法を確立する。	・県教育情報課やSEI-Netヘルプデスクとの連絡を密にし、業務の実態に合わせた運用方法を検討し、実施する。 ・SEI-Net活用のための職員研修を実施する。	

④佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育の推進による、地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	○佐賀を誇りに思う教育の実践	佐賀の歴史や伝統、産業や技術を尊重しつつ、次世代につながる魅力あるふるさと作りに貢献できる教育の実践	・地域の文化への関心を高める。	・講演会を実施し、佐賀の魅力を再確認することで、他の様々な文化への興味や関心を高める。 ・朝の自習時間を利用し、1年次に書籍「佐賀語り」をとおして佐賀のことを学ぶことで、「ふるさと佐賀」に対して誇りと自信につながる見識を深める。
	○更なるグローバル教育の充実	グローバルな視野に立ち、世界で活躍できる人材の育成を目指した教育活動の実践	・生徒のグローバルな視野を広げようとする授業や教育活動を実践する。 ・社会課題に対する関心を喚起し、コミュニケーション力や問題解決力を育む教育を実践する。	・国際理解教育講演会を始めとする諸活動の計画、実施を通して、本校独自のグローバル人材像やグローバル教育について職員のコンセンサスを図る。また、それぞれの教員がグローバルな視野に立った授業を心がける。 ・県主催の「世界とつながる青少年交流推進事業」や本校が独自に行う「佐賀大学留学生との国際交流プログラム」を通し、また民間企業の留学などへの積極的な参加を促し、生徒が国際理解を深めることのできる機会を多く提供する。「探究Ⅱ」や日頃の授業を通して自分で問題解決を図る姿勢を身につけさせる。
⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	規範意識の向上	・規則の遵守、防犯安全に対する意識を高める。 ・生徒指導措置および交通事故件数の減少に努める。	・ホームルームや集会等を利用して、日頃から道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等についての啓蒙を行う。 ・テキストやプリント・ポスター等により意識づけを行う。
		部活動の活性化	・部活動を通して、体力・忍耐力・協調性を養い、連帯感を身につける	・他の校務分掌や生徒会等と連携しながら、生徒の能力・適正、興味・関心等に応じた活動を行う。また、家庭や地域社会の教育力や支援をうけながら積極的に活動を展開していく。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・「命の大切さを学ぶ教室」を1学期に実施し、命の重みや尊さを学ぶ。 ・心の教育をとおして思いやりの心を育成する。
		困り感のある生徒への対応	・カウンセラー利用の呼びかけや保健室利用の生徒の把握を行い、早期の対応を行う。	・スクールカウンセリングの活用や教育相談連絡会、特別支援委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができるようの方策を図る。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	・いじめの発生件数0を目指す。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫すること でいじめのおこらない雰囲気を作成する。 ・アンケート調査や面談等でのいじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織としていじめ問題にすばやく対応する。 ・心の教育をとおして思いやりの心を育成する。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・校内環境美化に努める。 ・健康診断を有効に活用し、健康な体づくりに努める。	・学校全体でゴミゼロ運動に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通じて、健康な体づくりを目指す啓蒙活動を行う。 ・部活動をとおして心身の健全な発達を促す。
		学校保健教育の推進	・保健室での応急措置件数を1,350件以下にする。	・内科的訴えに対応するため、相談時間を確保する。教育相談係を中心にスクールカウンセラーを活用する。 ・「保健だより」を通して、時機に応じた内容の記事を掲載し、啓蒙活動を行う。
	○図書館教育	望ましい読書習慣の育成	・生徒の読書量と質を向上させ、一人あたりの年間貸出冊数3.6冊以上、貸出総数2,800冊以上を目指す。	・朝の読書、LHRでの一斉読書、学級文庫の活用等を通して積極的な学校図書館の利用を推進する。 ・「図書館だより」を通して、新着図書、お薦めの本の紹介等の情報発信を積極的に行う。 ・生徒たちの教養や知識の水準を上げるような本の提供を行う。
⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にする。	・PTA総会において、学校評価計画を示し、本年度の重点目標について十分な説明を加えることで周知を図る。また、学年保護者会・学年通信・広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。 ・生徒にも重点目標をしっかりと周知し、学校全体で目標達成に向けて取り組む。
	○開かれた学校づくり	P T A 総会や学年保護者会の充実	・P T A 総会への保護者の出席率を60%以上にする。	・P T A 総会の案内を一次・二次に分け、早めに案内する。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・総会資料を事前に配布する。
		中学生体験入学の充実	・体験入学の出席者数を募集定員の200%以上にする。	・早めに計画を立て、中学校に案内を出す。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・内容を工夫し、中学生の興味関心を高める。
		情報発信の推進	・広報誌「武雄高校だより」を年12回以上発行する。	・近隣の中学3年生全員の他、教育事務所や教育委員会にも配付する。 ・ホームページを利用して広報を徹底する。 ・在校生だけでなく中学生の興味も引くよう、内容を工夫する。 ・プレスリリースを積極的に行い、対外的な情宣活動に取り組む。
			・ホームページの更新を頻繁に行う。 ・スクールNewsを活用する。	・生徒の活動状況だけでなく、保護者向けの文書などもアップする。 ・緊急情報等はWeb配信・メール配信も活用する。
教育活動	○地域との連携	地域との協働活動の推進	・地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力をはぐくむ。	・武雄市との連携を深め、地域のリアルな課題をもとに現状を探り、地域の課題解決に向け魅力を活かした将来のプランを創造的に組み立てるように、総合的な学習の時間等を利用する。
⑦教職員の指導力向上、機能的・効率的な学校運営による組織力の強化				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・教科の専門性を高め、奥行きのある授業の実践に努める。 ・指導方法の改善に取り組む、わかりやすい授業の実践に努める。	・県教育委員会主催の「大学受験指導力向上研修会」や「民間教育機関（予備校）への教員派遣事業」などへの積極的な参加を促し、個々の教師の指導力向上を図る。 ・各教科において、電子黒板や学習用P C の効果的な活用をとおして生徒の興味関心を引き出し協働学習やアクティブラーニングにつながる学習活動の工夫を図る。 ・研究授業の実施や参観の機会を増やし、指導方法の改善に役立てる。 ・生徒による授業評価の結果をそれぞれの授業改善に役立てる。
	○教育環境の整備	施設・設備の充実、効率的な予算の配置・執行	・安全な学校施設、学業に専念できる学校環境づくりに努める。 ・適正な予算の執行に努める。	・定期的に点検を行い、該当箇所の早期発見に努め対応にあたる。また、情報共有のため職員間での連絡を密にする。 ・本校の長年の懸案事項であった「南体育館全面改築」に向けて、早期実現ための要望や協議等に関係機関に働きかけていきたい。 ・厳しい予算配分の中、各事業内容を再点検し有効な予算の執行に努めたい。

◎特定課題（県立学校共通）

●必須項目（県立学校共通）

○独自評価項目